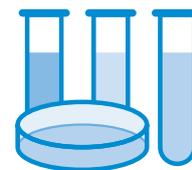


## 細菌検査統計報告 (当検査センター受託分)



当検査センターで受託した細菌検査における細菌検出状況及び細菌薬剤感受性情報を一部取り上げご報告いたします。全体の情報は当検査センターホームページに掲載されていますので、併せて診療にお役立ていただけたら幸いです。

今回は、腸管出血性大腸菌の検出状況について掲載いたします。

### 【細菌検出状況】

腸管出血性大腸菌検出状況 2020年6月～8月

腸管出血性大腸菌 血清型	6月	7月	8月
O-157	1	0	0
O-111	1	0	0
O-26	0	0	1
O-128	0	0	1
血清型不明	2	0	0
合計	4	0	2

腸管出血性大腸菌は強い病原性をもち、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群(HUS)を起こすことがあります。代表的な血清型にO-157、O-26、O-111などがあります。腸管出血性大腸菌感染症は3類感染症に指定されているため、検出された場合は直ちに届け出が必要です。

当検査センターでは腸管出血性大腸菌の選択培地に発育した大腸菌のうち、血清型別検査陰性、ベロ毒素検査陽性のものを腸管出血性大腸菌血清型不明とご報告しています。2020年6月に2件認めています。

当検査センターホームページでは細菌検出状況(検査材料別)、細菌薬剤感受性情報(菌種別)、薬剤耐性菌分離状況情報についての情報をご覧いただけます。<http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>

検査科微生物係